

プーチン痛烈：“哀れな” 深層国家が米露関係を壊しにかかっている

プーチンが会談内容とは無関係の痛烈な発言

【訳者注】米大統領選よりだいぶ前に、記者たちが、プーチンについて何かの疑惑をあげてトランプに迫ったとき、「そんな証拠があるなら出してみろ」と、トランプが怒ったことがあった。今度はこれをプーチンが演じたようなものだ。トランプにとって、米政界に、信頼でき尊敬できる人物は一人もない。そういう人物は“敵国”のロシアにしかいない。だからトランプ-プーチン会談は絶対に必要である。我々にとっても絶対に必要である。彼がプーチンを「競争相手」competitor だと言ったとき、それは軍備や戦力の競争ではなかった。世界をよくするために、どちらがよく働くかという競争である。これほど気持ちのいい競争はない。世界の2巨頭がこんな競争をしたことがかつてあったか？ プーチンがこの顔をして怒ったのは、それを理解できない、病的な自己破壊の精神構造をもつ「哀れな」者たち、「自分自身を犠牲にして」この会談の邪魔をしようとする、ゲス野郎どもに対してであった。この単純な一点を指摘しないで、ニュースは何が言えるだろうか？

Daniel Newton, www.neonettle.com

July 19, 2018



ヘルシンキでの歴史的なトランプ - プーチン会談に続いて、ロシア大統領は、本題からはずれて、反応を示し、トランプ大統領を攻撃する、熱病と恐怖に取りつかれた、現在のメディアに直接、話しかけた。<http://www.neonnettle.com/news/4539-deep-state-in-full-panic-over-what-putin-told-trump-at-helsinki-meeting>

深層国家が、トランプ/ロシア・ヒステリーに続いて、我慢の限界に達するに及んで、プーチンは、会談の内容とは無関係の発言をした。

「本題とは別に全く個人的に、私はひとこと申し上げたい」と、ロシア大統領は言った。

「どうやらアメリカには、ちょっと目くばせをすれば、自分の内部的な政治的野心のためには、露米関係を平気で犠牲にする、一部の勢力があるようだ」と、彼は言った。



「彼らはいつでも、彼ら自身のビジネスの利益を犠牲にし、ヨーロッパや中東の、彼らの同盟国の利益を犠牲にし、さらには、自分の国の安全保障を犠牲にする用意があるようだ」と、プーチンは言った。

「こういった人々は、“卑劣漢でも、哀れな野郎”でもない」と彼は、かつての有名なロシアの風刺漫画に言及して言った。

「その反対だ。彼らは完全に権力を持ち、商売がうまくいって——ちっと言い方は失礼だが——いろんな、ちょっと呑み込めないような物語を、何百万の人々に、うまく売りつけている」と、彼は結んだ。

タイム誌でさえ、トランプとプーチンが、同じ人間に溶け込んだような、ショッキングな表

紙を発表し、一方、CNN はカンカンに怒っている。

<https://edition.cnn.com/2018/07/19/politics/trump-putin-time-cover-trnd/index.html>

Zerohedge によれば、この写真では、トランプの目立つブロンドの髪と、薄いまつげと、結んだ唇が、プーチンの鼻と青い目に融合している。

<https://twitter.com/NewDay/status/1019904064899899392/photo/1>

この驚くべき写真は、ビジュアル・アーティスト Nancy Burson によるもので、「最近の 2 人のフィンランド、ヘルシンキ会談の後の、米外交のこの特別の瞬間を表現すべく、意図されたもの」と、タイム誌は言っている。



一方、AI Masdar News が報じたように、ロシア大統領ウラジミール・プーチンは、木曜日、モスクワの外務省で行われた、各国大使と、ロシア連邦永久代表の集会を前にして、「本題をはずれて」演説を行い、アメリカの「反ロシア陰謀団は、自分自身を犠牲にして露米関係を破壊しようとしている」と、厳しく非難した。

このスピーチで、プーチンはまた、現在の政治的緊張にもかかわらず、「ヨーロッパ連合 EU との関係を発展させる」必要を強調した。

彼はまた、ウクライナとジョージアを、NATO の影響圏に組み入れようと試みる国々は、「この無責任な政策のもたらすかもしれない結果を考えるべきだ」、なぜなら、ロシアは、「ロシアに向けられたどのような侵略行為でも、同じやり方で応報するからだ」と述べた。

このスピーチが行われたのは、プーチンと米大統領ドナルド・トランプが、ヘルシンキで、2者会談を行った数日後である。

トランプは本国へ帰った後、2016年大統領選にロシアが干渉したと言われる問題で、FBIでなく、ロシアの側についているように見えることから、厳しい非難を浴びている。

——以上